

令和8年8月24日開催
調 査

経済福祉常任委員会資料

○調査事件2 アワビ陸上養殖事業の進捗状況について

産 業 課

調査事件２ アワビ陸上養殖事業の進捗状況について

１ アワビ陸上養殖事業の現状について

(1) 現在のアワビ生産状況について

現在のアワビ生産状況は、試験飼育の種苗を除き、令和８年７月２８日現在の飼育総数が 75,080 個となっております。

施設内の生育状況については、令和４年度及び令和６年度に北海道栽培漁業振興公社（以下「栽培公社」という。）から購入した種苗が納品後のへい死が多く、育成数が大きく減少している状況にあります。

また、令和６年度に北日本水産株式会社（以下「北日本水産」という。）から購入した種苗については、７月の種苗納品であったため、夏場の輸送ストレスに加え、岩手県の海洋環境の変化により種苗が疲弊し、多くのへい死が発生しております。

なお、へい死した見合い分の補填については、山林火災の被害状況が復旧し、種苗生産が安定した段階で、納品される予定となっております。

【栽培公社】

（単位：個）

管理区分	購入数	輸送・飼育時 へい死	販売数	在庫
令和４年産	68,000	39,262	25,043	3,695
６年産	37,000	20,498	95	16,407
７年産	65,000	10,499	0	54,501
計	170,000	70,259	25,138	74,603

※R5 は購入なし

【北日本水産】

（単位：個）

管理区分	購入数	輸送・飼育時 へい死	販売数	在庫
令和６年産	50,000	38,917	10,606	477

(2) アワビ種苗の購入について

アワビ陸上養殖の種苗については、令和５年度に栽培公社で発生した筋萎縮症により種苗購入が困難となったことを受け、栽培公社からの斡旋を受け、令和６年度からは北日本水産からも種苗を購入しております。

北日本水産では、令和７年２月２６日に岩手県大船渡市で発生した林野火災により甚大な被害を受けましたが、現在はアワビ種苗の生産が順調に

回復しており、当町への令和8年産種苗の供給数は現時点で未定であるものの、秋頃には当町が希望する種苗購入に係る売買契約を締結できる見込みとなっております。

なお、栽培公社産の種苗については、北海道が種苗生産を担う熊石センターに紫外線殺菌装置を導入したことにより、令和7年度に購入した種苗は成長が順調で、へい死率も低く推移しており、販売サイズ到着まで高い歩留まりでの成育を期待しております。

今後の種苗確保については、栽培公社及び北日本水産からの購入を計画しており、令和8年度は栽培公社から25mmの種苗2万個の購入契約により、12月に納品予定であります。今後は栽培公社と北日本水産の種苗を併用しながら、安定した種苗確保に努めてまいります。

(3) アワビの販売状況について

令和7年度の販売実績は、令和6年度に北日本水産から購入した種苗の販売が順調に進んだ一方、令和5年度の種苗確保ができなかった影響もあり、17,205個の販売にとどまっております。

近年の販売状況は、種苗の確保が不安定な状況が続いており、これらの要因が相まって販売サイズの在庫不足が生じております。この結果、令和7年度の販売額は対前年を下回る結果となっております。

なお、町民向け直売会は、令和7年度で4回開催し、5,566個、販売金額が、1,352,246円の実績となっております。

(単位:個、円)

区分	活販売				冷凍商品及び ふるさと納税		合 計	
	一般		商用					
	個数	販売額	個数	販売額	個数	販売額	個数	販売額
R3	9,474	2,061,124	22,758	4,833,790	3,145	1,139,176	35,377	8,034,090
R4	4,960	831,404	17,394	2,927,144	3,720	1,311,168	26,074	5,069,716
R5	0	0	5,289	829,250	830	264,803	6,119	1,094,053
R6	4,201	996,762	14,349	2,478,794	960	290,131	19,510	3,765,687
R7	5,566	1,352,246	10,709	1,848,330	930	308,095	17,205	3,508,671
R8	805	187,758	2,385	318,136	100	29,808	3,290	535,702

※R8の数値は、令和8年7月28日現在の数値

2 過去3ヵ年の決算状況について

[歳入]

(単位:千円)

科 目	決算額			予算額
	5年度	6年度	7年度	8年度
活販売(一般)	0	997	1,352	4,941
〃(飲食店等)	829	2,479	1,848	1,188
冷凍食品(5個)	8	0	13	25
〃(卸/60%)	244	290	231	385
ふるさと納税	13	0	65	86
歳入計 ①	1,094	3,766	3,509	6,625

[歳出]

(単位:千円)

科 目		決算額			予算額
節	細 節	5年度	6年度	7年度	8年度
報 償 費	専門家謝金	100	50	0	100
旅 費	普通旅費	123	67	165	237
需 用 費	消耗品費	2,324	3,355	3,299	4,518
	燃料費	133	78	109	171
	印刷製本費	32	0	111	0
	光熱水費	2,452	2,489	2,745	3,186
	修繕費	596	1,536	142	540
	アワビ稚仔購入費	0	6,272	3,850	4,950
	小計	5,537	13,730	10,256	13,365
役 務 費	通信運搬費	110	381	237	613
	海水取水設備点検手数料	-	221	349	587
	各種手数料等	171	17	25	58
	小計	281	619	611	1,258
委 託 料	消防用設備点検委託料	37	36	31	35
	除雪業務委託料	76	119	132	286
	小計	113	155	163	321
	機器・器具等借上料外	15	11	12	90
備品購入費	管理用備品購入費	126	50	151	300
人 件 費	会計年度任用職員	8,673	11,372	12,514	13,649
歳出計 ②		14,968	26,054	23,872	29,320

収支 ①-②	▲13,874	▲22,288	▲20,363	▲22,695
--------	---------	---------	---------	---------

3 アワビ陸上養殖生育等調査委託について

平成29年度から開始したアワビ陸上養殖事業は、当町独自の生産方式により生産を行ってきましたが、生産性及び効率の向上を課題として、令和7年度に北日本水産のノウハウを最大限に活用した大量生産の可能性等について調査を行っております。

水質サンプル調査では、アワビ陸上養殖施設の隣接地を掘削し、地下浸透海水の可能性を調査しております。

また、既存の養殖施設には北日本水産が生産に使用している水槽を利用し、試験飼育用の種苗4,000個を搬入しており、従来の多段式の飼育方式（以下「多段式という。」）と北日本水産方式の5メートル水槽（以下「プール式」という。）を同一種苗で比較する試験を行い、成長の検証を行っております。

(1) 水質サンプル調査（地下浸透海水の可能性調査）

ボーリング調査の結果、礫まじりのシルトから5メートル地点で泥岩の堆積が確認され、海水の浸透は非常に少ない結果となりました。

ボーリング業者からは、適切な地点を選定すれば取水は可能であるとの見解が示されており、今年度も引き続き調査を継続することとしております。

(2) 既存陸上養殖施設での試験飼育（北日本水産方式との比較）

本試験では、既存の多段式と北日本水産で採用するプール式によるかけ流し式とを比較し、アワビの成長効率の調査を行っております。

調査の結果、殻長・体重ともにプール式での成長が優れており、殻長のばらつきも少なく均一に成長していることが確認され、重量についてもプール式の方が高い成長結果を示しております。

項目	プール式	多段式	比 較
平 均 殻 長	49.3 mm	45.5 mm	3.8mm
重 量	18.6 g	15.3 g	3.3g
肥 満 度	0.156	0.162	▲0.006

(3) アワビ生産事業収支について

上記の試験等結果から既存の陸上養殖施設において、新たな生産方式が可能となった場合、販売サイズ70mmで年間約73,000個の販売が見込まれる試算が示されております。

一方、支出面では、人件費を含む生産コストの抑制が重要であり、人件費や餌料費の削減が必要であるとの結果が示されております。

人件費については、多段式からプール式へ移行することで、清掃等の労働負担が軽減され、餌料費については、間引き昆布などの未利用資源の活

用によりコストダウンが可能と報告されております。

このことにより、生産方式を見直すことで、3年目から単年度で黒字化が見込まれるとの試算が示されております。

ただし、この試算は多段式を全て廃止し、プール式での飼育に統一することが条件とされております。

【福島町アワビ生産事業収支計画】

(単位:千円)

区 分		1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	備考
収入	売 上	10,000	10,000	30,660	30,660	30,660	
	補助金等	12,800	16,100	-	-	-	外部資金
	計	22,800	26,100	30,660	30,660	30,660	
支出	種苗購入	13,000	13,000	13,000	13,000	13,000	
	光熱水費	3,500	4,800	4,800	4,800	4,800	
	餌 料 代	2,500	3,500	5,200	5,200	5,200	
	人 件 費	3,800	3,800	3,800	3,800	3,800	
	諸 経 費	-	1,000	1,000	2,000	2,000	
	計	22,800	26,100	27,800	28,800	28,800	
収 支		0	0	2,860	1,860	1,860	

※北日本水産株式会社試算（既存アワビ養殖施設でプール式とした場合）

※収入の売上で1～2年目は、既存在庫の売上である。

※売上に係る販売サイズは、7cmで試算。

4 今後の方向性について

これまでのアワビ陸上養殖では、アワビカレーなどの新たな特産品が生まれるなど、また、町民向け販売や町内飲食店での提供を通じて、福島町アワビの認知度が町内外の方々に広まっております。しかし、間接的な効果は一定程度あるものの、アワビ陸上養殖事業の収支は依然として厳しい状況にあり、改善が課題となっております。

このような中、北日本水産のノウハウによりアワビ陸上養殖における新たな生産方式の確立や給餌方法の見直しを行い、生育期間の短縮に成功しており、また、令和8年度からは種苗の安定確保が見込まれることから、施設の生産能力を最大限活用した生産・販売体制の構築を進めてまいります。

これまでの生産方式の見直しを検討するために実施した多段式とプール式の比較試験では、プール式がより効果的であることを示す数値が得られたことから、新たな陸上養殖体制の構築に向け、北日本水産と連携しアワビ増産に向けた取組みを進め、事業の持続可能性と拡張性の向上を図ってまいります。

今年度も北海道の地域づくり総合交付金を活用し、北日本水産へ「アワビ陸上養殖生産等調査事業」を引き続き委託しており、地下浸透海水の取水調

査やプール式水槽を増設した成長試験のほか、新たな販路開拓や出荷体制の検討も併せて実施する内容となっております。

なお、アワビ陸上養殖事業については、既存の多段式水槽は経年劣化により改修が必要となってきましたが、これまでの試験結果等を踏まえ、プール式水槽への全面的な移行を令和9年度から3ヵ年計画で進めるとともに、同時並行で、北日本水産の協力をいただきながら今後5年を目途に施設運営を同社へ移行する方策も協議してまいります。